

章	ページ数	見出し	内容	担当(資料提供)
はじめに	2			
第1章		人と斜面		後藤 鈴木
1.1	4	斜面に住むということ	斜面に住む→外国と日本の違い→昔と今の違い→これからどう変わるのか？ 都市部では斜面を開発し、住宅を建設、都市と地方の人口推移や少子高齢化によって土地の利用はどうか？	後藤 稲垣
1.2	4	斜面で起こる災害の移り変わり	広島災害から住み方が変わった→個人としてどうするか？ 家屋の耐震化は進んだが、家が建つ地盤の安定性や自宅の裏山の危険度の評価が必要。	田村
1.3	4	斜面の利用	宅地、農地、観光、スポーツ→豊かな自然を享受する場、生活の場、色々な意味がある	青木 田村 上野
コラム1	1	地球温暖化	猛暑、豪雨	岡田
コラム2	1	津波	沿岸、林、津波減災	佐々木(寧)
コラム3	1	宅地の安全性	ブロック積み壁、建築基準法(既存不適合)	小島
	15			
第2章		豪雨による斜面の災害		上野 櫻井
2.1	4	住宅の被害: 足元と背後の斜面に注意	①昭和41年6月豪雨で横浜市内での崩壊多発により宅地の被害で ②平成11年広島豪雨での住宅地の被災 ③平成17年山陽道盛土崩壊、山陽道の土石流被害、上信越道の崩壊	小嶋 (上野) 西川 (鈴木) 稲垣
2.2	4	ライフラインの被害: 道路・鉄道での切土・盛土の崩壊	①昭和43年8月豪雨での土石流による飛騨川バス転落事故で104 ②降雨時の落石による高山線での事故など鉄道の災害(能登線崩壊)	谷川 外狩
				西川







	2	地震時宅地被害の法的な位置づけや紛争例→デベロッパの責任→保険の適用範囲→事業者のリスク回避術(大災害債券など)		
	2	事前対策の例:中越沖地震の刈羽村の事例、東京都での対策事例→どこに誰に相談する?→どう対策する?費用は?制度は?→しないとうどういう被害を被る?身体的被害・経済的被害・人生設計の狂い・子孫への影響		上野
3.2	2	ライフラインの被害	太田	上野
	2	(道路が被災すると個人にとってどういう影響が出るか、どう自衛するか)	太田	上野
	2		太田	釜井
	2		上野	岩佐 平田
	2		?	
	2		上野	
3.3	2	自然斜面の被害	太田	
	2	(直接生活とは関係のない山間地自然斜面で起きる現象が個人にどういう影響を与えるか)	小川	櫻井
	2		小川	上野
	2		櫻井	上野
	2		後藤	
コラム1	1	液状化	釜井	
コラム2	1	耐震基準	小嶋	



コラム3	1	地震の恩恵	コラムなので、地震が厄災ばかりではなくて良いこともあるんだというような話が書けると良いのですが...例えば、中越地震で山古志村を崩したりほぐしたりして、それが新潟平野に流れ出て穀倉地帯を作ったとか何とか。。。地震があるという事は、山が隆起するという事で、それが日本アルプスをつくり壮年期の人の登山マニアの人の役にたっている、など。	中村(洋),青木
コラム4	1	緊急地震速報		岡田
	38			
第4章				
		プロから見た斜面災害防止方法	谷地形に宅地造成を行って崖崩れが生じた事例紹介(川崎市蟹ヶ谷の例)、都市部(大田区や品川区)の崖崩れ紹介、宮城県栗原市の高遠地すべり地の事例	岩佐 小川
4.1		土砂災害発生の予知予測		
	2	降雨量による予知予測	降雨量を用いた土砂災害発生予測方法についての紹介と問題点について記す。→一般的な方法、道路分野、鉄道分野の例→土壌雨量指数・スネーク曲線・実効雨量	岡田 天野 外狩
	2	地形・地名・地質による予知予測	地形、地質による予測方法、地名による過去の地形や土地利用の推定と土砂災害の予測西山委員・新書の執筆ですが、地形・地質と崩壊に関する部分でしたら、ぜひとも分担させていただきます	長谷川 上野
			西山委員:新書の執筆ですが、地形・地質と崩壊に関する部分でしたら、ぜひとも分担させていただきます	西山
	2	センサーによる予知予測	光ファイバーや土壌水分計等による方法の紹介→光ファイバー設置モデル事業(土研)、鹿児島県の事例(北村教授)	後藤 岩佐
4.2		構造物による対策		
	2	対策工実施する際の調査方法	土砂災害別(崖崩れ、落石、地すべり、土石流)に調査方法や調査する際のポイントを紹介する→宅地盛土も含める	岩佐 中野 櫻井 中濃 小川 守随 釜井
	2	対策工の種類と特徴	崖崩れ、落石、地すべり、土石流対策工の種類とその特徴(長所と短所)を紹介する→宅地盛土も含める	岩佐 中野 櫻井 中濃 小川 守随 太田
	2	対策工の効果	対策工によって土砂災害を防いだ事例の紹介	櫻井 中濃 小川 平田 岩佐
4.3		ソフトによる対策		





		2 ハザードマップの作成とその利用方法	土砂新法の制定経緯と内容、ハザードマップの意味、制定事例、ハザードマップの利用方法	上野 太田	
		2 土砂災害発生の予兆と避難	土砂災害発生する前の予兆例をのべ、周囲の人への伝達及び避難→水がにごる、腐った土のにおいがする、川の水が止まる、ぼらぼらと石が落ちる等の現象が生じた場合の避難→5章とだぶる？	後藤 稲垣	
コラム1	1	急傾斜地対策		伊藤	
コラム2	1	海外での斜面対策		岩佐 太田	
コラム3	1			大石 川畑	
	19				
第5章	みなさんができること～家族を守る			稲垣 金井	
5.1	4	災害の傾向と対策を勉強しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>根本的な対策は、危険なところには住まないことである！</li> <li>→しかし、これには限界がある</li> <li>→だから、被害を小さくする方法を考え実行しましょう</li> <li>→災害から守るべきものは、「命」と「財産(=宅地)」,そして「地域(=環境)」</li> <li>→対策をとるためには、どうしたらよいか？</li> <li>「自分の住んでいる地域の特性を知る」</li> <li>→どこでどのような災害が発生する可能性があるのかを知る</li> <li>→どうなったら危険なのかを知る</li> <li>→そのために防災教育やハザードマップがある</li> </ul>	稲垣 金井	
5.2		命を守るアイデア			
	2	危なくなったらすぐ避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害が発生する危険性が高まったときに個人ができることは、安全な場所に避難することである！</li> <li>→いろいろな情報をもとに避難しましょう！</li> <li>→でも、入ってそんなに簡単に避難できないんです</li> </ul>	金井	
	4	みんなまで避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難することができず地域の仕組みをつくりましょう</li> <li>→住民主導型自主避難体制の確立に関する事例紹介</li> <li>→土砂災害の危険性が高い中山間地域は、特に少子高齢化が進む</li> <li>→自分一人では避難することができない人の増加</li> <li>→いざというときに、地域内で対応にあたることのできる若い人不足</li> <li>→少子高齢化を踏まえた対策を考える必要があります</li> <li>→災害時要援護者への対応(事前にどこにたれがいるのか確認し、いざというときにどういう方法で避難援助をするのか決めてお</li> </ul>	金井	



		2 みんなで助け合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害被災の復旧は自己責任</li> <li>・みんなで助け合いますよ＝ボランティア</li> <li>→災害ボランティアの受け入れ(被災後の復旧作業ができない人の手助けとしてボランティアの力を借りる、そのためには日頃の助け合い)</li> </ul>	金井
5.3		宅地を守るアイデア		稲垣 太田
		4 個人でできる地盤対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅の危険性に気づいたら、どんな対策をとることができるのか？また、どこをお願いしたらいいの？</li> </ul>	稲垣 太田
		2 いざというときに備えて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いざというときに備えて、必要に応じて保険に加入しておくでしょう</li> <li>・もし加入していないと大変ことに・・・</li> <li>→被災後に残るのは、被災者と非被災者の格差問題(二重ローン、教育機会の喪失など)</li> </ul>	稲垣 太田
		2 乱開発にはご用心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅周辺(後ろの崖など)の開発行為には注意が必要なこと</li> <li>も・・・</li> <li>→水の変化、泥がでるようになった、高いよう壁が怖い</li> <li>→それによって災害が発生した場合には、裁判ごとに・・・(川崎裁判、横須賀裁判、呉裁判他を事例に、国家賠償法にもふれる)</li> </ul>	稲垣 伊藤 太田
5.4		地域を守るアイデア		
		4 災害による環境破壊とその対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害によって、地域を形成する「自然環境」が破壊される</li> <li>→生態系、森林・植生、根系層の被害</li> <li>・環境に配慮した対策を</li> <li>→杭効果、緊縛効果、防火林、倒壊家屋の支え、樹木を残した斜面安定化工法</li> </ul>	稲垣 外狩
		2 災害からの復興のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が発生してしまった後のことも考えておきましょう</li> <li>→もとの場所にそのまま復興するのか？みんなが移転するのか？</li> <li>→地域の歴史や文化はどう保存するのか？</li> <li>→観光資源や特産物はどう再生するのか？(山古志村を事例に書いてもよいのでは？)</li> </ul>	稲垣 大野
5.5		4 今後はどうなる、どうしたい、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面の安全を確保する技術、いざというときを判断する情報はどんどん整備されている</li> <li>・その一方で、地球温暖化等の影響で雨量は増加</li> <li>→自然の力を技術で制御することは不可能</li> <li>→何より大切なことは、自然豊かな日本で暮らすということは、災害にあう危険性があるということであり、そのことを自覚すること！！！！</li> <li>→それを踏まえて、みなさん自身で備えることが重要です</li> </ul>	後藤 金井
コラム1		1 マンション		吉田



コラム2	1 宅地			小島
コラム3	1 道路の上の植生がなくなったとき、危ないよ			築瀬
コラム4	1 宅地の買い方		224を修正	小嶋
コラム5	1 災害学習マップ			上野
コラム⑥	1 崖崩れに強い植物			菊池
コラム⑦	1 災害に強い森や林			佐々木(寧)
コラム8	1 災害時のゴミはどうなる			大野
	38			
第6章 まとめ				
	6 本書のまとめ			
おわりに	2			
引用文献	2			
合計頁	142			

